



にゅーすれたーふじやま・長泉 震える子どもたち

2010・3

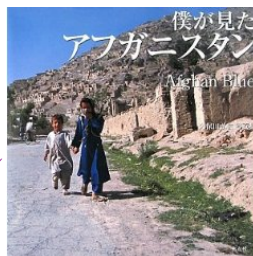
パナソニックエイジフリー介護チェーン

ふじやま店内
ステキなステッキが揃っています

ハイチに続きチリでも大地震が起きました。しかしハイチに比べ世界有数の地震国のチリでは1960年の地震で M9.5と世界の観測史上最大の揺れを経験しているため、厳格な耐震基準が定められています。防災教育も徹底しており米紙のクリスチャン・サイエンス・モニターは「外出の際にはいちいちガスの元栓を閉めるなど、他の国ではやり過ぎと思われるような防災対策がチリでは当たり前」と指摘しています。積み重ねてきた対策が効果を発揮し、被害もハイチのような急激な増加はないものと予想されています。しかしテレビなどには親を亡くした子どもや夫を亡くした女性の姿等が映し出されています。略奪も起こり治安も悪くなっているようです。日本からの支援も始まっているようですが私達も遠い他国のことと思わず、個人々が災害に備えたいものです。(危機管理意識を持つ)

日本でも2月28日(日)チリ地震の影響で3メートルの津波の恐れがあるとして、青森県から宮城県にかけての三陸沿岸部に大津波警報を発表し、各地で大変な騒ぎとなりました。私の義母も当日早朝に大正琴の発表会で焼津に行きましたが帰路東名高速道路で津波警報が出されたため2台のバスは日本坂サービスエリアでストップ。。。。家に戻ったのは深夜でした。高齢者の多い彼女たちのバスを心配しましたが、幸いサービスエリアだったためトイレなどでは困らなかったそうです。しかし道路上で停まっていたドライバーや同乗者はどうしていたのか考えると恐ろしくなります。「転ばぬ先の杖」「備えあれば憂いなし」の格言どおりに最低限の備えは各個人でしておかなければならないとずっと提唱させていただいております。そんな時一番困るのがトイレだと思っています。以前にもご紹介させていただきましたが「ワンポイトイレ」という商品があります。「携帯ワンポイ」という商品は優れものだと自負しています。お電話いただければ進呈しますのでご一報下さい。

2003年3月、イラク戦争開戦を攻撃されるバグダッドから生々しい戦渦の様子をいち早く日本のテレビ局に伝えたフォトジャーナリストの久保田弘信さんと会う機会を得、短い時間でしたがお話をさせていただきました。彼は大学で物理学を学びましたがスタジオでのアルバイトをきっかけにカメラマンの道へ進んだそうです。旅行雑誌の取材の仕事で一人のパキスタン人と出会いパキスタンでアフガニスタン難民を取材したことで本格的にフォトジャーナリストとして生きることを決意されたそうです。彼の制作した DVD2本を見せていただきましたが生まれてすぐ赤ちゃんを失ったお母さんや震える子どもの姿をみたときには自分も母親として目頭が熱くなり、そのシーンが脳裏に焼きついて離れません。彼は3月1日「これが最後かもしれない」と言って戦渦の続くアフガニスタンへ向かいました。何か役に立つかもしれないと言ってリュックの中には弊社のペットシーツの損紙を入れての旅立ちでした。



携帯用ワンポイ



掛川市出身の伊藤和也さんのことは記憶に新しいと思います。2008年8月アフガニスタン東部ブレイライ村で拉致され、凶弾に倒れました。久保田さんも伊藤さんも難民の支援のために命がけです私共のやっている社会貢献活動などは彼らの足元にも及びませんが、これからも久保田さんの支援をしながら地域のために出来る限りのお手伝いをしたいと思います。彼への支援はDVDを買っていただくことです是非ご協力よろしくお願ひ申し上げます。(DVDは¥3000でふじやま事務所に用意してあります)



3月8日(月)弊社の新規採用者内定式がホテルグランド富士にて行われました。今年は男子3名・女子1名が入社してきます。福祉事業部への配属予定者はチャーミングなのに芯のしっかりした女性です。彼女は15年間卓球をやってきたのでこれからもコーチのゼッケンをつけて大会に出場したいと抱負を述べました。また「人の痛みのわかる人間になりたい」とも述べていました。私も福祉事業部のトップとして彼女を育てる責任があります。一緒に学んでいこうと思います。

渡邊啓視